



国や世代を越える防災教材の開発・実践・普及

①海外向け防災教材の開発と提供

2016年、JICA（国際協力機構）からの委託を受け、本研究室とエクアドルとの交流が始まった。エクアドルは自然災害リスクの高い地域であり、防災の普及が課題となっていた。2021年から、これまでの国内で普及を図ってきた防災教材をスペイン語及び英語に翻訳し、エクアドル、ペルー、トルコをはじめとする海外への教材提供を開始した（図1）。本研究室が制作した防災紙芝居『ゆれがきたぞ!!』、『みずがくるぞ!!!』は災害発生時の具体的な行動をさまざまな虫の行動に置き換え、災害時の対処行動について学べるようにしたものである（藤井,2014）。2021年4月にはエクアドル国家危機管理・緊急対応機関にスペイン語版が提供され、現在主要7都市の教育機関で使用されている。



図1：開発したスペイン語版「みずがくるぞ!!!」

②世代をつなぐ防災教育プログラム「BOSAIユースアンバサダー」の実践

阪神・淡路大震災を契機に、全国での防災教育の見直しと改善が進められてきた。その一方で、高等学校においては防災教育の取組の遅れが指摘されている。本研究室は2021年度より「伝える防災」の理念を掲げ、静岡県内の高校と連携して、高校生による幼児向け防災講座の実施を指導・支援する「BOSAIユースアンバサダー」プログラムの開発・普及を進めている。本プログラムの特色は、高校生が大学の支援のもとで、みずから防災の内容を織り交ぜた幼児向けの遊び（防災遊び）を考案・実施するところにある（図2）。2019年度より開始し、これまでに静岡県内の7つの高校で導入されている。同プログラムに参加した高校生244名に対して行った事前及び事後にアンケート調査（2021）では、参加した生徒の防災意識や学習意欲の向上などが認められ、ハザードマップの確認といった防災行動にもつながっていることが示された。現在では書き込み式の副教材、オンライン教材、防災アプリを開発・提供し、防災教育の担い手の育成と裾野の拡大を図っている（図3）。また、静岡県危機管理部、浜松市防災学習センター、名古屋市港防災センターとも連携し、プログラムの拡充を図っている。



図2：プログラムの概要
出典：上田・藤井・上地，2022



図3：活動の様子と副教材